

2018年
237号
 2月21日(水)

ねんきん越谷

全日本年金者組合越谷支部
 〒343-0845
 埼玉県越谷市南越谷2-13-49
 (越労連内)
 TEL・FAX 048-989-2472
 E-mail keyaki-n@biscuit.ocn.ne.jp

ハーモニカ演奏と踊りで楽しい集い

「新春・誕生会」 平方山自治会館で

1月24日、42名の参加で市北部の平方山自治会館で開かれました。初めて参加する人も多く、年金者組合埼玉県委員長の宇佐美忠利さん(東越谷お住い)越谷市議の山田大助さんも参加しました。

「集い」は担当者が10時に集まり、豚汁とまぜご飯とサラダなど作り、「野菜が高くて大変だね」とか賑やかに作り、台所が狭く感じました。料理作りは、会場の手配など今回もお世話になった伊藤富子さん、瀬川依子さん、吉田和子さんと早川初枝さんで、大変おいしく出来ました。ご苦労様でした。手作りの集りでは差入れはありがたいものです。瀬川、川原、大野、坂田、吉田(健)、大喜、宇佐美、伊東(正)、大久保、飯田の皆さん(順不同、敬称略)、ありがとうございます。

前々日の大量の雪が残り、参加できない人が多くなるのかと心配しましたが、たくさんの方に参加して頂きました。12時少し過ぎに、広瀬さんの司会、吉田



「ハーモニカ演奏」の人は、宇佐美忠利さんです。



「踊り」は、伊藤富子さんです。



「傘持」は、山田大助さんです。



五十嵐 保坂 足立 山本 樋口 和田
 平野 大久保 森山久 大野
 川原 石山 飯田 坂田 伊東 内藤

「年寄りの話はよく聞いた方がよい」、など中身の濃いウンチク、多方面の話がありました。

和田書記次長のクイズで盛り上がり「なるほど」と感心、そのあと、誕生月(12・1・2月生)の方に生花の贈呈全員で記念撮影をし、「沖繩を返せ」をみんな歌い、最後、みんなの後片付けをして午後3時すこし過ぎにお開きになりました。

会場には「安倍9条改憲・NO! 300万署名」も置かれ、また、沖繩の名護市長選挙の「稲嶺勝利の寄せ書き」もあり、政治、社会的発言、文化的、生き方、趣味など盛りだくさんで時間が足りないうらいでした。(2班・川原利雪)

点 睛

「沖繩米軍基地を子や孫に残していいのか」

昨年11月、沖繩を訪れる機会を得ました。短期間であり現状把握など不十分さは免れませんが、沖繩の人の話や雰囲気から感ずるところがありました。

沖繩は先の太平洋戦争末期、日本が急激な窮地に追い込まれ、勝ち目のない中で、日本の体制を守る時間かせぎのため、日本領土内唯一の地上戦を強いられ、県民は20万人の死者が出る甚大な被害に見舞われました。

沖繩は当時、本土の防波堤と位置づけられ、一般人も含め、「絶対に降伏はしない」「全力を上げて死ぬまで戦え」とされていたので、自爆的な死、肉親による幼児殺し、日本兵による他殺、餓死、傷病死など、悲惨なものもあつたとの事です。

そして戦後は、米軍占領下におかれ、戦争避難中あるいは強制的に土地は基地化され、今日に至っても日本の全米軍基地の74%が沖繩に集中しており、減少は進んでいません。

基地があるため諸弊害(殺人、その他の人身事故、環境、産業、文化、風俗、その他、あらゆるものへの弊害は計り知れないものがあります)。

戦後70年という長年の辛抱、経験の中で基地による利益よりも、これに代わる活用の方が、利益が大きいこともわかってきました。

そして何よりも、「軍事基地という非生産的なものでの労働では、人間としての喜びにも、成長にも結び付かない。そのうえ、人類の発展を阻害するものとあつては、こんな状態を子や孫に引き継ぐこととはとてもできない。なんとかならぬ。ない。なくすまで粘り強く頑張らねばならない」との静かな決意をいくつも耳にしました。

(栗原三郎)

次回の宣伝行動 3月21日(水曜日) 12時~13時 南越谷南口